

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社めぐみ	代表者	坂本慎吾	法人・事業所の特徴	利用者個別の状況に応じ、通所、訪問、宿泊を組み合わせた柔軟な支援を行っている。 自宅を改造し、地域の中で家庭的な雰囲気支援を行っている。 利用者だけでなく、地域の方々にも気軽に相談できる場所として運営を行っている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護めぐみ	管理者	大森裕志		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	7人	1人	1人	0人	人	1人	人	人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	① 開始初期はミーティングを重ね、申し送り・記録・フェースシートにその内容を記載し周知を続ける。	①・ケアマネが収集してきた情報を申し送りや記録に落とし込み、自宅までの経路、住宅見取り図まで含めて周知している。 ・利用に至った経緯からインテーク面接の内容まで職員に伝達し、ミーティングを実施。個人に寄り添ったケアができている。 ・朝のミーティング時、職員会などで話し合い情報は共有できている。	・問題点の改善に向けた計画が練られていると思う。また改善に向けて対応している様子が伺える。	①新規契約の申し送り、フェースシートの更新時は読んだことを確認できるよう署名行う
	②フェースシート更新時周知行い、各職員必ず読む。	②・フェースシートは年1回更新しており、更新時は周知している。 ・自分の担当者の分は読んでいるが、利用者全員までは読めていない。 ・個別評価票にフェースシートを挟むことで読みやすい状況になっている。 ・CMが丁寧に更新し、新しい内容は一目でわかるよう赤字で更新しているので利用者にとどのような変化があったのか分かりやすい。 ・更新時には申し送りがあるので、必ず読むようになった。 ・フェースシートに知りえた思いの記入などが細かく記入できており周知も出来ている。フェースシートのファイルも1階に置きすぐ読める位置にある。		②契約時・モニタリング時に大まかにでも本人、家族の希望を確認する
	③支援内容、本人の様子を記録、ミーティングを通じ支援内	③・支援内容を記録し、それをミーティング時に共有することで状況に応じた支援を行っている。 ・関わった事柄全てを一日の様子として記録し、申し送りで翌日の職員に伝え共有している。		③状態の変化、事故、支援内容の変更などあればグループラインを活用し周知行う

	容を共有し対応していく。 ④地域の方との情報交換の為に、運営推進会議は出来るだけ書面開催ではなく対面式の会議を維持していく。その為に会場を継続して真穴地区公民館で行う。 ⑤利用者、家族の要望に応じた柔軟な支援を今後も続けていく ⑥・地域のイベントに積極的に参加していく。また必要に応じ民生委員と連携し対応する。 ⑦真穴地区公民館での運営推進会議の開催を継続する ⑧・研修への積極的な参加を促す。また諸事情などにより参加が難しい場合youtubeでの動画視	・即時的に対応することが多いため、休みなど続くと支援内容が大きく変わっていることもあり、情報共有は徹底している。 ④R5年度は9月以外、真穴公民館で開催。対面での開催を継続している。 ・2ヵ月に1回推進会議を開催し地域の方と情報交換で来ていると思う。会議の内容については毎回議事録により報告あり。 ⑤・柔軟な支援が行えている。予定外の泊り、通所など家族の都合を受け入れ対応できている。 ・穴井診療所の受診介助、正月の配食も希望があれば対応している。 ⑥・昨年5月にコロナがV類に分類されたが、やはりまだ流行している様子が見られており慎重な対応を行っている。その為地域のイベントに利用者を積極的に連れていくことはできなかった。 ・逆にめぐみの避難訓練に民生委員が参加されるということや運営推進委員の方へのめぐみの見学など行い交流を持つことができた ⑦・定期的に開催し、民生委員や地域の方に事業所の様子を報告できている。 ・令和5年度は9月以外開催できている。 ⑧・地域密着型サービス協会の研修に参加し事業所内で報告行っている。 ・研修に行けない者は動画視聴による研修を行っている。		④必要に応じ、地域の方と協力し地元での生活を支える ⑤利用者、家族の要望に応じた柔軟な支援を今後も続けていく ⑥・感染状況を確認しながら地域のイベントに積極的に参加していく。 ・地域の方へ避難訓練の参加の声掛けを継続する ⑦真穴地区公民館での運営推進会議の開催を継続する ⑧・職場内研修を実施する ・研修アプリを活用する。
--	---	--	--	--

	聴を行い研修方向を行う。 ⑨ 引き続き業務上の職員間の情報交換は利用者の傍で行わぬことを徹底する	⑨・可能な限り、利用者の傍で申し送りしないなどしているが、建物の構造上困難な場合もあり苦慮している。 ・ミーティングや職員会議などを行うスペースがフロアしかない為困難な場合がある。 ・事業所の構造上、申し送りを完全に他者の耳に入らないようにすることは困難。		⑨朝、夕の申し送りは利用者から離れた和室で行う
B. 事業所の しつら え・環境	・引き続き、消毒・定期的な換気、検温など徹底し感染予防に努める。 ・推進委員のめぐみ見学の機会を持つ。	・感染対策は継続している。 ・5月の会議終了後、推進委員とともにめぐみに行き見学ツアー実施。 ・またそれとは別に5月、11月避難訓練に推進委員に参加して抱いた	・8月に事業所内でコロナ流行したが、外部の利用者に感染させることなく収束したことは対策がなされている証と思われる。 ・「事業所に入りやすい工夫がされているか」という点について。用事で訪問した際、呼び鈴を押しても返事がない時がある。また、中に入っても挨拶ないことがある。めぐみが気持ち良い挨拶のある誰でも覗ける場所であってほしい。	・玄関に人が来た時は、玄関を開け挨拶を行う
C. 事業所と地域の かかわり	見守り隊、民生委員、地域の方々と互いに連絡を取り合える今まで培われてきた関係を維持していく	・地域行事への参加は感染状況を考慮すると参加ができなかった。今後もそのような状況が続くと思われる。	・事業所は地域の方に知られているかという点は避難訓練など参加することで一定の理解を得られていると思う。	・地域の方と必要時に相談できる関係を維持していく。
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える 取組み	感染症の状況を見ながら、地域の行事への参加ができるよう図る。参加する際、事業所の人員のみでの対応が困難な場合、地域の方の助力も検討する	・地域行事への参加ができなかったのは人員の問題ではなく、感染症の状況によるもの。今後もそのような状況が続くと思われる。 ・天候や人員次第ではあるが、折を見て外出レクには取り組んでいる。	・地区行事は冬季のものは屋内での開催になる。感染症の状況を見て判断すればいい。	・春～秋にかけ気候のいい時には積極的に外出レクを実施する。 ・地域行事への参加は感染症の状況を考慮し実施する。

E. 運営推進会議を活かした取り組み	当面、公民館での開催を継続。地域の方々と情報交換できる現在の形を維持する。 感染症の状況を鑑みながらめぐみでの開催も検討していく。	・令和6年度、1度も休むことなく開催できた。 ・感染症の状況を考えると公民館での開催が妥当		・公民館での開催を継続する
F. 事業所の防災・災害対策	・4月、10月に避難訓練、偶数月に通報機器取扱訓練、水消火器取扱訓練を実施。職員全員が落ち着いて対応できるようになる。 ・「事業所の防災訓練に参加したことがありますか」は「いいえ」が多くついている。次年度は訓練日程を推進委員メンバーに告知。一緒に訓練を行うことができるよう図りたい。	・5月、11月に実施した避難訓練は運営推進委員に案内を配り参加していただくことができた。次年度も声掛け行う。 ・年間通じて行ってきた通報機器等取扱訓練は12月の訓練をもって全職員が経験。今後も訓練を続けていく。	・消火訓練、避難訓練など消防署に指摘されたことについて改善がみられている。 ・防災対策については、災害の規模感にも左右されると思うので万全な計画、準備というのは難しいと思う。 ・職員間の防火意識を高め漏電対策などもしてほしい。 ・避難時はブレーカーを切ることが重要。訓練の際、意識しておいてほしい。	・運営推進委員への避難訓練の案内を継続する。 ・避難訓練の際、ブレーカーの確認を行う。 ・通報機器等取扱訓練は継続していく。